

第二章活用事例

「心やさしき人」―宮沢賢治のものがたり―

小学校一・二年生版
「心あかるく」 p.46
「心あかるく」 p.51

【主題名】 温かい心で

第一学年及び第二学年 2(2)

「幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にしよう。」

【ねらい】 相手のことを考え温かい心で接し、親切にしようとする態度を育む。

《ねらいとする道徳的価値について》一・二年生の時期の児童は、まだ幼さが残り、相手の立場や気持ちを理解できないことがあります。友達や家族、そして身の回りの様々な人に支えられて自分という存在があることに気付かせ、自分も誰かを支えられる存在であるようにする気持ちを育むことが大切です。温かい心で人に接し、親切にすることが、自分自身を豊かにすることを実感させることも大切です。



「この人を知っていますか。」

○宮沢賢治を紹介し、これまでに読んだことのある賢治の童話や絵本などを思い出させて、資料への興味をもたせましょう。

○教師が「心やさしき人」を読み聞かせましょう。



「騒ぎに気付いて様子を見ていたとき、賢治はどのようなことを思ったでしょうか。」

○騒ぎを止めに入るまでの賢治の心の動きを捉えさせましょう。



中心発問

「賢治は、どのような気持ちで、『このシャツの何がおかしい。』と言ったのでしょうか。」

○「いつもは おこらない 賢治が」という部分に着目させ、賢治がからかわれている男の子のことを、心から考え、その子のために行動しようとしていることに気付かせましょう。

《評価》 相手のことを考え、親切な行動をすることの大切さに気付くことができたか。



「泣いていた男の子が笑顔になったのを見たとき、賢治はどのような気持ちだったでしょうか。」

○親切が人々の気持ちを温かくすることに気付かせ、親切にすることのよさや大切さについて、考えを深められるようにしましょう。



「困っている人に親切にしたことはありますか。」

○資料と似た場面や状況だけでなく、学校以外の場面や子供以外の人に広げて思い起こすことができるようにしましょう。

○どのような気持ちで親切にしたのか、そのとき相手はどのような様子だったかを見つめ直させましょう。

○「心あかるく」 p.92 「心あかるく」 p.93 「あたたかい 心を とどけよう」をのみぢかな 人たちに、親切にした ことを 書いて みよう」に記入をさせて、発表させましょう。

○教師自身が相手の気持ちを考えて親切にできた体験を、子供たちに語りましょう。

○「心あかるく」 p.92 「あたたかい 心を とどけよう」の言葉をみんなで読み、授業のまとめにしましょう。

板書例

心やさしき人

―宮沢賢治のものがたり―

宮沢賢治の
写真

さわぎにきづいて ようすを みているとき、けんじはどのようなことを おもったでしょうか。

○ ひどいことをしているな。

○ からかわれてかわいそうだ。

○ 目になみだをうかべているのにまだやめないのか。

けんじは、どのようなきもちで 「このシャツの なにおかしい。」と いったのでしょうか。

○ つらいおもいをしているともだちを、たすけなければ。

○ じぶんも、からかわれたらきつといやなおもいをするだろう。

○ なにもわるいことをしていないのに、からかわれたりするなんて、おかしい。

賢治が止めに入っている挿絵

なっていた おとこのこが えがおに なったのを見たとき、けんじは どのような きもちだったでしょうか。

○ おとこのこが、えがおになってうれしい。

○ これまた、みんなでいっしょにあそべたのしい。

○ みんなでなかよくすごせるのは、とてもきもちがいい。

みんなが笑顔で走り出す挿絵

こまっているひとに しんせつにしたことは ありますか。

○ きんじょのおじいさんが、にもつをいっばいもってあるいていたので、はんぶんもってあげた。

○ みちでおかねをおとしたひとがいたので、いっしょにひろってあげた。

○ バスののっていたら、あかちゃんをだいたひとがのってきたので、せきをゆずった。

電車やバスの席の写真

《評価》 相手のことを考え温かい心で接し、親切にしようとする態度を育むことができたか。